

離床時における障壁（バリアー）に関する調査報告

近年、早期離床は行うべき介入となったが、臨床においては様々な要因により早期離床が実施できないケースもある。本調査では離床時における障壁（バリアー）に関するアンケート調査を行ったので報告する。

方 法

調査期間：2016年2月18日～2016年2月28日
調査対象：日本離床研究会教育講座の参加者のうち回答の得られた575名

対象職種：看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士

調査方法：質問紙法（配布）

●設問

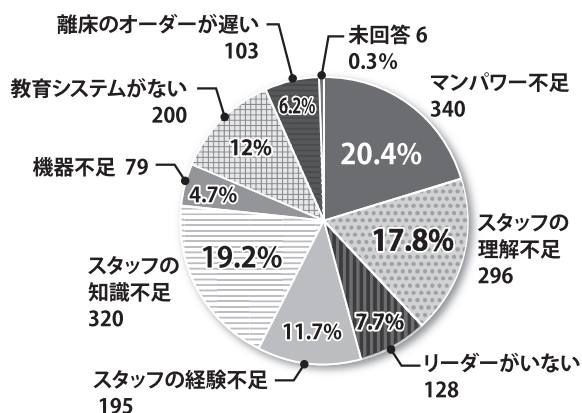
皆さんの施設（病棟）で感じる、患者さんを離床する上でのバリア（障壁）は次のうちどれですか？（複数回答可）

●回答選択肢

・マンパワー不足・スタッフの知識不足・スタッフの理解不足・リーダーがいない・スタッフの経験不足・機器不足・教育システムがない・離床のオーダーが遅い

結 果

・ アンケート回収総数 575



考 察

本調査の結果より、マンパワー不足、スタッフの知識不足、スタッフの理解不足について高い割合の回答を得た。先行研究においても Barber ら¹⁾ は医療スタッフに対し離床の障壁（バリアー）について質問の行い、スタッフの不足、機器の不足、教育の不足などが要因として挙げた報告している。また Dubb ら²⁾ は、ICU 患者の早期離床に関する障壁（バリアー）分析として文献レビューを行った。その結果スタッフの知識不足、ガイドラインの不足、離床する文化がないなどが因子として挙がっており、本調査と同様の結果が報告されている。これらの結果からわかることは、離床に関する障壁（バリアー）は様々な因子が存在していることである。つまり、単一の対策ではこれらの問題を解決するのは困難であり、多職種で連携し対応していくことが必要と考える。早期離床を各施設や病棟で現状より推進したいと考えたときには、盲目的に離床基準やプロトコルを決定することや、勉強会を開催するのではなく、その施設において問題となっている要因を明らかにして、その要因に対して対策を考えていくことが重要である。また、今回はスタッフ要因を回答選択肢としたが、これ以外にも患者要因（鎮静・鎮痛管理、重症度）の分析も大切なポイントとなる。

文 献

- 1) Barber EA, et al. Barriers and facilitators to early mobilisation in Intensive Care: A qualitative study. Aust Crit Care. 28:177-182, 2015.
- 2) Dubb R et al. Barriers and strategies for early mobilization of patients in intensive care units. Ann Am Thorac Soc.13:724-30, 2016.

著者情報：飯田 祥 * 黒田智也 * 土屋 研人 * 曷川 元 *
* 日本離床研究会 学術研究部